

福岡大学病院長候補適任者調書

氏名 岩崎 昭憲

<p>(医療安全管理業務の経験)</p> <p>医療事故調査制度管理者・実務者セミナー 2021.3.31 日本医師会 特定機能病院管理者研修 2020.11.2 公益財団法人日本医療機能評価機構 医療安全管理者 取得 2018.9.17 (認定番号 180917183) 全日本病院協会 医療安全管理委員会委員 (2014.4.1-2016.3.31)</p>
<p>(病院の経営を含む管理運営に関する経験)</p> <p>病院長(2019.12.1-現在) 福岡大学理事 (2019.12.1-現在) 総病院長(2021.4.1-現在)</p> <p>病院長補佐(2011.12.1-2013.11.31) 大学協議員(2017.12.1-2019.11.31)</p> <p>手術部長(2014.4.1-2016.3.31) 内視鏡部長(2016.4.1-2017.3.31)</p>
<p>(教育・研究・診療に関する業績)</p> <p>医学部学生部委員 (2013.12.1-2015.11.30) 臨床研修プログラム責任者養成者取得 2010.10.9 (認定番号 1875) 厚生労働省 エクステンションセンター委員(2009.12.1-2013.11.30) 卒後臨床研修センター委員(2008.4.1-2015.3.31)</p>
<p>(その他特記すべき事項)</p> <p>特定機能病院に関する委員会委員 (日本私立医科大学協会) (2021.6.1-現在) 被災地医療支援委員会 (全国医学部長病院長会議) (2020.6.1-現在) 福岡県医療審議会委員(2019.12.1-現在)</p>

## 福岡大学病院長候補適任者所信調書

氏 名 岩崎 昭憲



この度、福岡大学病院長への立候補にあたり所信を述べさせていただきます。2019年12月より病院長に就任し、掲げた目標を着実に実践してまいりました。この間には、新型コロナウイルス感染症により社会や医療環境も大きく変化しました。しかしながら福岡大学は様々な課題が生じたにも関わらず、教育、研究、高度医療の提供など多くの使命を果たすことができました。

以下にその成果と、私が考える福岡大学病院の更なる飛躍案を述べたいと思います。

**【財政基盤の安定】** 大学病院の本来の役割である先端医療の推進、教育、研究や魅力ある職場づくりには財政基盤の安定が欠かせません。当院は残念ながら長期の大幅な支出超過で推移してきました。したがって経常収支改善への取り組みが急務でしたが、私が前回の院長マニフェストの最重要項目に掲げました財政基盤の安定化を今回ようやく達成しました。就任後の令和2年度決算では、近年5年間の大幅な支出超過から脱して平成19年以来13年ぶりの収入超過へ転じました。これは、組織力・機動力の強化、効率性の向上など経営面での改革に職員が一体となった様々な取り組みの成果だと考えます。全国29私立大学病院の医療機関別係数の比較でも当院は常に平均以下でしたが、最近1年間は急上昇しこれを大きく超えていることより、私たちの strategy は正しいことが示されています。しかしながら他の筑紫病院や西新病院を含めた病院部門全体の恒常的赤字は学校法人福岡大学の財政に大きな影響を及ぼしています。判断が甘かった博多駅クリニックが閉院したのはご存じのとおりです。これらを解決するため三病院の一体的改革に新たな統括責任者として総病院長制度が設けられ、本年4月より就任し陣頭指揮を執ってきました。学長・大学執行部と「病院経営改革特別委員会」で経営分析を毎月実施して行動計画を立てています。今後も本学との緊密で迅速な連携を行い、その内容を皆さんに提示し病院改革を積極的に推進します。

### **【飛躍する病院へ】**

・（新本館建設）就任直後に引き継いだのは、漠然とした新本館の基本設計図でした。その後は、建設準備室を立ち上げ具体的な実施設計を取りまとめるため多くの課題を克服してきました。一例としてエネルギー棟、メディカルサポート棟、新本館の3つの棟を一体化し、かつ大幅なコスト縮減を実現させてようやく理事会での承認を獲得し建設を現実のものにしました。今後50年を想定し各診療科、診療部門からの様々な意見調整を行った結果、患者や職員にも「機能と使い



やすさ」を重視した建物になります。いよいよ今秋に着工で 2 年後の完成に向けて工事が始まりますが、設計施工企業との連携や管理調整を指導していきます。

・（診療の強化）特定機能病院として安全で高度な医療提供を行い地域医療に貢献する役割を担っています。現在の 23 診療科、15 診療部、18 診療支援部門、4 診療支援組織と事務部の構成に改編しました。これは各診療科、部門の強みを活かした戦略を推進し、またブランド化にも力を注ぐためです。診療部門に臓器移植医療センターを組み込み、最先端ロボット手術センターや炎症性腸疾患センターを設け、福岡大学がんセンターに名称変更し機能充実も図りました。また長年停滞していたハイブリッド手術室を短期間で完成させ最新の低侵襲血管内治療を稼働させました。今後も臨床指標を分析して自院の強みや弱みを整理し、福岡大学病院の差別化戦略を推し進めます。

#### 【職場環境について】

2021 年 5 月 21 日に医師の「働き方改革」に関する要件を定めた改正医療法が成立しました。これにより 2024 年からは、特に大学病院などの長時間労働の勤務医には労働時間短縮計画作成や健康確保が義務づけられています。これまで黙認されてきた長時間労働により支えられてきた大病院での医療の維持が困難になることが危惧されています。適切な労務管理や多職種によるタスクシフト/シェアなどの業務範囲の拡大・明確化への取り組みが急務と考えます。現在、医師事務作業補助の増員や権限拡大、さらに入院支援部門の拡充を進めているところです。

医師、看護師、技師がキャリアプランを描いて目指している資格取得の支援に引き続き力を尽くします。既にいくつかの資金支援も始めています。また対面参加で学べる教育の機会がコロナ禍で少なくなっていますので、しばらくはオンデマンド配信機会を増やし医療人の育成とともに医療安全の強化を行います。

#### 【今後の取り組み】

・思い込みや不確かな情報には頼らず、常に最新の数値データをもとに議論する文化(Culture of Evidence)や定量的・定性的データを収集分析し行動計画、目標値をわかりやすくする IR (Institutional Research) 部門が病院でも大切だと思います。すでに立ち上げている IR 部門の充実を行っていきます。

・次期統合医療情報システムの更新作業を進めていますので、あわせて DX の充実と魅力ある病院づくりを進めていきます。既に YouTube 配信を始めましたが、様々な手段で「開かれた・あたたかい病院」として広報活動の強化に努めます。

・3 病院連携による組織力・機動力の強化、効率性の向上など経営面での一体化により、ひいては良質な医療の提供につなげていきます。

（まとめ）現在の医療をとりまく複雑な環境下では、「大学病院の院長」は専任職に徹する覚悟が必要です。私は、これまでの経験を活かし専任職として誰よりも福岡大学病院改革へ情熱を持って取り組み、皆さんとすばらしい病院を築けると確信しています。

（注）「福岡大学病院長候補者選考基準」を踏まえて作成すること。